

農家民泊・ホームステイを受け入れてくださるみなさんへ

五ヶ瀬山学校推進協議会
受け入れマニュアル-農家編-



五ヶ瀬山学校推進協議会

事務局：五ヶ瀬町鞍岡 2840 NPO 法人五ヶ瀬自然学校内
TEL.FAX.0982-73-6366 (担当：杉田英治、井倉溪)

目 次

はじめに	3
1.どんな子どもたちが来るの？	4
2.山学校って何？	4
3.計画例	5
4.どんな気持ちで迎えたらいいの？	6
5.どんなことをしてあげればいいの？	7
6.してはいけないことは？	8
7.やるべきことは？	9
8.困ったときは？	10

(添付資料)

●手洗いの励行	11
●緊急先一覧	12
●五ヶ瀬山学校推進協議会組織図	13

はじめに

いま、国では、文部科学省・農林水産省・総務省が協力しあって、「子ども農山漁村交流プロジェクト」という事業を進めています。五ヶ瀬町ではこのプロジェクトを「五ヶ瀬山学校推進協議会」を組織（し進めています）。

「山学校」と聞いて皆さんピンと来るとは思いますが、先生が「勉強」を教えてくれる小学校や中学校ではなく、山、川、森、神社、田んぼ、畑、そして五ヶ瀬に暮らす皆さんが先生となって子どもたちに「生き方」を教える学校です。つまり、農山漁村地域において、自然・産業・文化などを、集団宿泊や農林漁家宿泊を通じて体験的に学ぶ自然学校です。対象は小学校高学年（5～6年生）です。

五ヶ瀬町は全国に先駆け、「夕陽の里づくり推進会議」が農家民泊で、「NPO 法人五ヶ瀬自然学校」や「霧立ち越えを考える会」が自然体験活動で、神楽保存会や太鼓保存会、荒踊り保存会などが伝統文化の継承で、「体験工房いっそ」や「ログ工房エルカンポ」が木工やログハウスなど物づくり体験で成果を上げております。また、五ヶ瀬中等教育学校のホームステイ事業やふるさと体験学習などにも町民の皆さまが積極的に関わってきました。

「五ヶ瀬山学校推進協議会」は、国の新たな取り組みと、五ヶ瀬町の先駆的取り組みをつなげ、さらに全国の先進モデルとして伸ばして行こうと考えております。

本書は、この事業に携わる農家の皆さんの心構えや困った時の対処法などを簡潔に述べた「受け入れマニュアルー農家編一」です。居間や台所など手に取りやすい所に置いていただき、くりかえしお読みいただけたら幸いです。



1. どんな子どもたちが来るの？

小学5～6年生が想定され、学校行事として来ます。

先生方は引率して来られますが、農家に一緒に泊まれることは原則としてありません。ただし、巡回されることはあります。

普通学級の子どもたちですが、特別な配慮が必要な子どももいることがあります。その場合は、事前に情報が得られます。

2. 山学校って何？

昔の五ヶ瀬町の子どもたちは、山や川で自由に遊び、畑や田んぼ、牛の世話など家の仕事の手伝いをしながら生きる術を学んできました。それが「山学校」です。しかし現在は、過疎化による子どもの減少、専業農家の減少、農作業の機械化、不審者の侵入、車による事故の増加など子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、昔のように自由に「山学校」ができなくなっています。更に都市部の子どもたちの体験不足は深刻な社会現象であり、日本の子ども全体が「過保護」になっており、「生きる力」が弱くなってしまっているのではないかとされています。

五ヶ瀬山学校推進協議会が目指す「山学校」は、五ヶ瀬地域の昔ながらの生活、四季折々の自然、脈々と受け継いできた伝統文化などを教材に、子どもたちの心に響く体験学習を実践し、優しくたくましい「生きる力」のある子どもの育成を行うことです。

具体的なプランは次のページをご覧ください。網掛けの部分が農家民泊、ホームステイで受け入れする時間です。プランはあくまで参考資料ですので、実際については利用を希望する学校と受け入れ可能な農家さんの意向を聞きながら、1泊もしくは2泊でお願いしたいと思います。



3. 計画例

	時間	活動	場所・内容
【初日】	午後	入村式、地域に関する情報交換 自己紹介、グループづくり 夕食、入浴	五ヶ瀬の里キャンプ村 食材の割り出し、買い出し、 野外での夕食調理体験
	夜	就寝	
【2日目】	午前	カヌー体験	蘇陽峡 環境学習
	昼	お弁当	河原
	午後	カヌー体験 各農家泊と対面 農家で宿泊体験	蘇陽峡 環境学習 各農家 共同で夕食づくり
【3日目】	午前	全体で生活体験	竹やぶで竹の伐採 伐採した竹で箸、器づくり
	昼	昼食	作った箸と器でそうめん
	午後	農家で宿泊体験 お別れ会（夕食）	風呂の薪割り、風呂沸かし 共同で夕食づくり
【4日目】	午前	農家とのお別れ 霧立ち越えトレッキング	片付け、清掃、お礼の言葉 霧立ち越えの歴史や動植物に ついて学習
	午後	霧立ち越えトレッキング 団体宿泊体験 夕食、入浴	トレッキングをしながら、高 山植物や動物、遠くに見える 山々について学習 五ヶ瀬の里キャンプ村 食材の割り出し、買い出し、 野外での夕食調理体験
【5日】	午前	宿泊体験活動のまとめ 片付け、お別れ会	班別に学習成果の取りまとめ 保護者あてに手紙作成 清掃活動

4. どんな気持ちで迎えたらいいの？

●こんな気持ちで

子どもたちは見知らぬ土地で初めての家に泊まるということで、不安と緊張を持って訪れてきます。

受入農家のみなさんの普段着の心がその不安と緊張を取り除きます。みなさんが過度にお客様扱いをしたり、気を遣いすぎたりしますと、みなさんが疲れてしまうと同時に、子どもたちも緊張感が抜けません。是非、ゆったりした心で子どもたちを包んであげてください。

子どもたちはいわゆる「お客さん」ではなく、あくまでも、学ぶことを目的として来る生徒です。接待や土産の用意は必要ありません。

普段着の姿と心で出会いとふれあいをお楽しみください。

●農作業や農家体験については

農作業・農家体験の際は、受入時に行っている普段の作業そのものを体験させてあげてください。草取りや石拾い等の農地整備・管理作業についても、その必要性も含めてご指導いただければと思います。

天候等の事由で外での作業が難しい場合は、室内での作業、農地農園の案内、農機具の説明等の他、縄蒷い、障子の張替えといった農家生活体験や、地域の紹介等でも結構です。観光地等への案内の必要はありません。

農家の生活文化に誇りをもち、日常生活へそのまま迎え入れてあげてください。



5. どんなことをしてあげればいいのか？

○お迎え

規定の場所までお迎えにきてください。

○自己紹介

お互いに。それと、おうちとまわり、ペットや家畜の紹介も。おうちとまわりの紹介は、いざという時や困った時のことも考えて、「もし火事がおこったら、ここからこう来て、ここに来て」とか「夜中おなかいなくなったら、この部屋におばさんいるから、ここに来て」とか「トイレはここだからね」とか、簡単に具体的に教えてあげてください。

○農作業、農家体験

普段の作業を、できる範囲で一緒にやらせてあげてください。その作業の必要性も語ってあげてください。

○入浴

入浴は、各家庭で普段どおりでお願いします。薪を使用する家庭では、薪割りや焚きつけなど子どもに体験させてあげてください。どうしても無理な時だけ公共入浴施設をご利用ください。

○食事

自炊方式（農家と子どもと一緒に作る）でお願いします。本事業の場合、保健所の指導により食品衛生許可等を得られていないご家庭で食事提供のカタチをとることはできません。

農家のみなさんが調理指導をしながら、子どもたちと共に食事づくりを楽しみましょう。片付けも含めてお願いします。くれぐれも華美なおもてなしにならないようにしてください。

○就寝

翌日も活動がありますので、あまり遅くならないように、よろしくお願いします。就寝部屋に入る目安の時間は9時です。

○情報

あらかじめアレルギー等健康上重要な情報は得られます。ご安心ください。

○その他

ふとんのあげおろしやシーツの支度、宿泊部屋の片付け等も体験の一環として子どもたちに体験してもらいます。学校からの課題（生活記録やインタビュー等）があるかもしれません。そうしたことができる環境づくりをお願いします。

6. してはいけないことは？

☆してはいけない3原則☆

1. 自分子どもにさせたくないことは、しない。
2. 自分子どもを「こんな目にあわせたくない」ということは、しない、させない。
3. 学校行事にそぐわないこと、常識はずれなことは、しない。

たとえば・・・

飲酒、喫煙。

たとえば・・・

アレルギー食品について不注意のごはん。アレルギー不注意の生活環境。
(アレルギーの情報は事前に得られます)

たとえば・・・

子ども同士のいじめ。セクハラ。

たとえば・・・

深夜の連れ出し。

たとえば・・・

不慣れな道具（のこぎり、なた、農機等）を指導なしで使用させること。

たとえば・・・

道路交通法違反（定員オーバー、軽トラ荷台への乗車）



7. やるべきことは？

(1) 食品・生活衛生について

- 手洗いの励行
- 上水（もしくは衛生基準を満たした水）の利用
- まな板の煮沸消毒（90℃ 2分間）
- 肉用と野菜用のまな板の用意
- 焼肉を行う場合は「取り箸」と「食い箸」を分ける
- 台所回りの掃除やテーブル拭き、野菜洗い等は子どもの作業としてもOK
- 新鮮な野菜の他は、生ものは出さず、熱を通した料理を。
- 清潔な布団の用意（事前に干しておく、シーツを洗っておく）

(2) アレルギー・既往症について

生活様式の変化、食品の安全性、環境問題等により、様々なアレルギー反応を示す人が増えています。

みなさんにお世話になる子どもたちの中にも、そば、大豆、油、果物（キウイフルーツ、りんご等）といった食物アレルギーや、猫、犬等の動物アレルギー、ハウスダスト、草といった生活環境アレルギーの子がいることがあります。

特に症状が重い場合は、学校側と受入が可能か否かについて打合せをしますが、みなさんのご理解、ご協力をいただく中で、受け入れをお願いする場合があります。その際、健康情報については学校から文書等で連絡をすると同時に、五ヶ瀬自然学校からも数日前か

ら電話で連絡いたします。

(3) 個人感覚の違いや個人情報の取扱いについて

昨今、生活習慣、個人の感覚、社会情勢の変化もあり、個人情報やセクシャルハラスメントに関連した問題が、各種メディア・報道で連日のように取り上げられています。

そうしたトラブルに巻き込まれないよう、また訪れた子どもたちが気持ち良く帰れるよう、生活全般において、特に異性の子どもに対しての指導等については、不快な事態生じないよう心がけてください。

こちらで何の気なしにとった行動も、その時の環境や状況においては相手が不快に感じる場合があります。

また、携帯電話番号やメールアドレスといった子どもの個人情報についてはこちらから積極的に聞くことは避けてください。

(4) 火災予防について

五ヶ瀬町役場総務課より下記の点について農家の方々に対応をお願いしたい旨の申し入れがありました。ご理解の上ご高配をお願いいたします。

- ①火の用心
- ②住宅用火災警報器の設置
- ③消火器の設置

8. 困ったときは？

(1) 緊急時（病気・怪我）の対処について

☆大変だあ！！！！

作業中あるいは生活全般の中で緊急事態が勃発することがないとはいえません。激しい出血、発作、昏倒、意識障害等を伴った緊急性のある症状があった場合は、即救急車 119 番への第一報（一次対応）をお願いします。心肺蘇生の必要があるときは落ち着いて行ってください。

その後、五ヶ瀬自然学校までご連絡ください。五ヶ瀬自然学校で学校本部へ連絡を取り、二次対応をします。

☆ちょっと困ったな～！

緊急性は見受けられないが少し様子がおかしい、ちょっとした怪我といった場合については、先ず五ヶ瀬自然学校までご連絡ください。その後、学校本部へ連絡を取り、お宅へ

の訪問等の事後対応策を検討・実施します。

(2) 緊急時②（交通事故）の対処について

万一、交通事故があった場合は、即警察への通報と救急車の要請をしてください。その後、五ヶ瀬自然学校まで速やかにご連絡願います。

*学校行事での当地への訪問ですので、各種保険等が付保されております。特別な状況以外は医療費の負担等はみなさんには及びません。

(3) 指導上、その他のことから対処に困り、緊急を要する場合

まずは、五ヶ瀬自然学校までご連絡ください。(P12)

☆手洗いの励行☆



1 洗う部分を水でぬらす



2 石けんを適量手に取る



3 手のひらでしっかり泡だて、手のひらを洗う



4 手の甲に手のひらをかぶせて洗う
(両手)



5 指の間をしっかりと洗う



6 指先・爪をしっかりと洗う(両手)



7 親指の周囲をよく洗う(両手)



8 両手首をていねいに洗う



9 流水でじゅうぶん洗い流す

五ヶ瀬町観光協会緊急連絡体制

何かあったら、まずは五ヶ瀬自然学校へ

NPO 法人五ヶ瀬自然学校	0982-73-6366
杉田 英治	090-6871-5997
杉田 千佳子	090-1199-4210

【関係団体連絡先】

関係団体	担当者	電話番号	備考
五ヶ瀬町役場地域振興課	奥村 和平	0982-82-1717	町窓口、事務局補佐
五ヶ瀬町観光協会	甲斐 麻香苗	0982-82-1200	事務局補佐
夕陽の里づくり推進会議	佐藤 成志	090-5290-3596	農家民泊担当
バックステイ	吉村 優	080-6569-3240	坂本地区担当
霧立ち越えを考える会	秋本 治	0982-83-2328	トレッキング
五ヶ瀬の里キャンプ村	井倉 溪	0982-82-1536	集団宿泊施設
ふれあいの里		0982-82-1544	集団宿泊施設
フォレストPIA	曾我部善一	0982-83-2106	ふるさと体験
体験工房いっそ	興梶 洋一	0982-82-1379	体験

【病院連絡先】

病院名	電話番号	対応できる科	救急対応
五ヶ瀬町国民健康保険病院	0982-73-5500	内科、外科、整形外科、放射線科	24時間可能
蘇陽病院	0967-83-1122	内科、外科、小児外科、消化器科、循環器科、整形外科、眼科、呼吸器科、小児科、皮膚泌尿器科	24時間可能
山口医院	0967-83-0506	小児科、皮膚科、内科	不可

※重症の場合や命にかかわるような症状の場合は、119番に電話をし救急車を要請してください。

緊急連絡の手順

現場担当者→五ヶ瀬自然学校→学校担当者→学校責任者→保護者

※病院の判断を仰ぎ、児童を帰宅させる事もございます。

五ヶ瀬山学校推進協議会組織図

